

令和2年度

№6 10月16日

松 籟



発行者
穴水秀人

応援したくなる訳は？

過日の中巨摩新人戦は、天候不良のため、ベストコンディションで臨むことができない場面もありましたが、何とか全日程を消化することができました。私も、生徒たちの奮闘に対して声援を送りたく、時間を調整しながら各会場に出向きました。新人戦は、3年生時の総体に向けての登竜門的な大会です。結果も大事ですが、来年を見据えての成果や課題を明確にすることがのほうが大切です。更なる飛躍を期待しています。

さて、私も管理職になる前は、部活動（野球部）の顧問をしていました。活動の中では、たくさんの自分の思いを生徒たちにぶつけていましたが、その1つに「みんなに応援される部」を目指そうと生徒たちに常々伝えていたことを覚えています。前号で「押忍！」について書きましたが、今号は応援される側の視点で、「応援したくなる条件」について考えたいと思います。

例えば、運動会のリレーで転んでしまった生徒が、ビリになっても最後まで走り切る。こんな様子を見て、観客は大きな拍手を送ります。冷静に考えても、この拍手は転んだことへの慰めの拍手ではありません。懸命に走っている姿に拍手を送っているのです。例えば、甲子園の高校野球は、プロ野球の2軍よりずっとレベルが低いのに、あれだけ応援してもらえるのは、彼らは、土日も夏休みも返上し、必死に汗を流してボールを追いかけてきたことを、みんなが知っているからです。だから、たとえ大差で負けていても、涙を流してまで応援してもらえるのです。AKB48のデビュー公演は、観客が7人だったそうです。それでも一生懸命続けたひたむきな姿に心打たれた人たちが根強いファンになり、日本一のアイドルグループに育ててくれたのです。もう理解できたと思いますが、私たちは、「結果にこだわらず一生懸命な人、ひたむきに努力している人」をどうしても応援したくなるのです。逆に考えると、いくら結果を出しても、いい加減な人、ダラダラとしている人に対しては、さほど興味がなくなるということになります。私が、野球部員に何を求めていたのか分かってもらえたでしょうか。

いくら頑張ったって、無駄になることも多いのではないかな。こんな疑問を持つ人もいますが、それは絶対に違います。私は「一生懸命な人＝運のいい人」だと考えています。頑張っている姿を、他人は見えていないようで見てくれています。すぐに結果がでなくても、どこかで運が開けてきます。そのような事例は、これまでいくらでも見てきました。

中間テストが終わり、いよいよ合唱コンクールへの取り組みが本格化します。新型コロナを言い訳にたくありません。どんな状況下でも、ひたむきに一生懸命取り組む姿勢、八田中3本柱の1つである「合唱」を絶やささない心意気に期待したいと思います。